

### 第3章 2018年透析導入患者の動態

#### 1. 臨床背景

2018年の患者調査票において、年齢と性別の記載が確認された導入患者数は38,147人であった。男性は26,397人、女性は11,750人で、導入患者の平均年齢は全体が69.99歳、男性が69.27歳、女性が71.61歳であった（図13、補足表13）。導入患者の平均年齢も慢性透析患者と同様、年々高齢化している（図14、補足表14）。最も割合が高い年齢層は、男性が75～79歳で、女性は80～84歳であった。

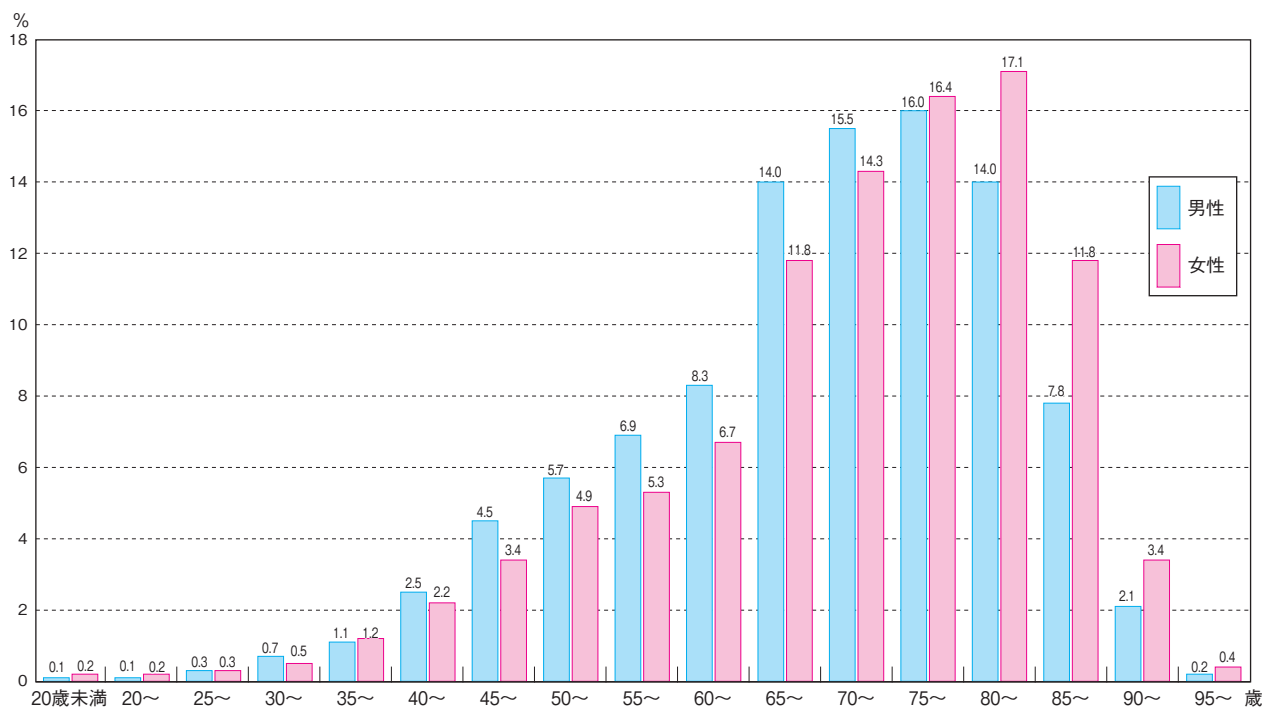


図13 導入患者 年齢と性別, 2018

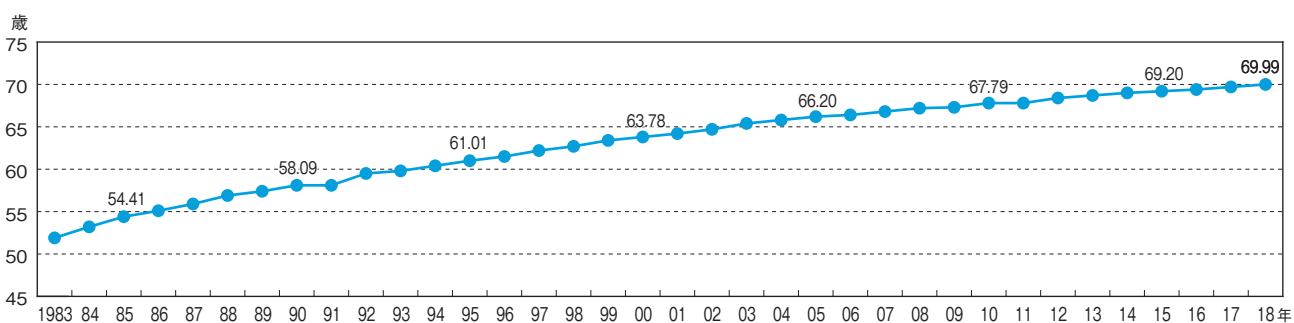


図14 導入患者 平均年齢の推移, 1983-2018

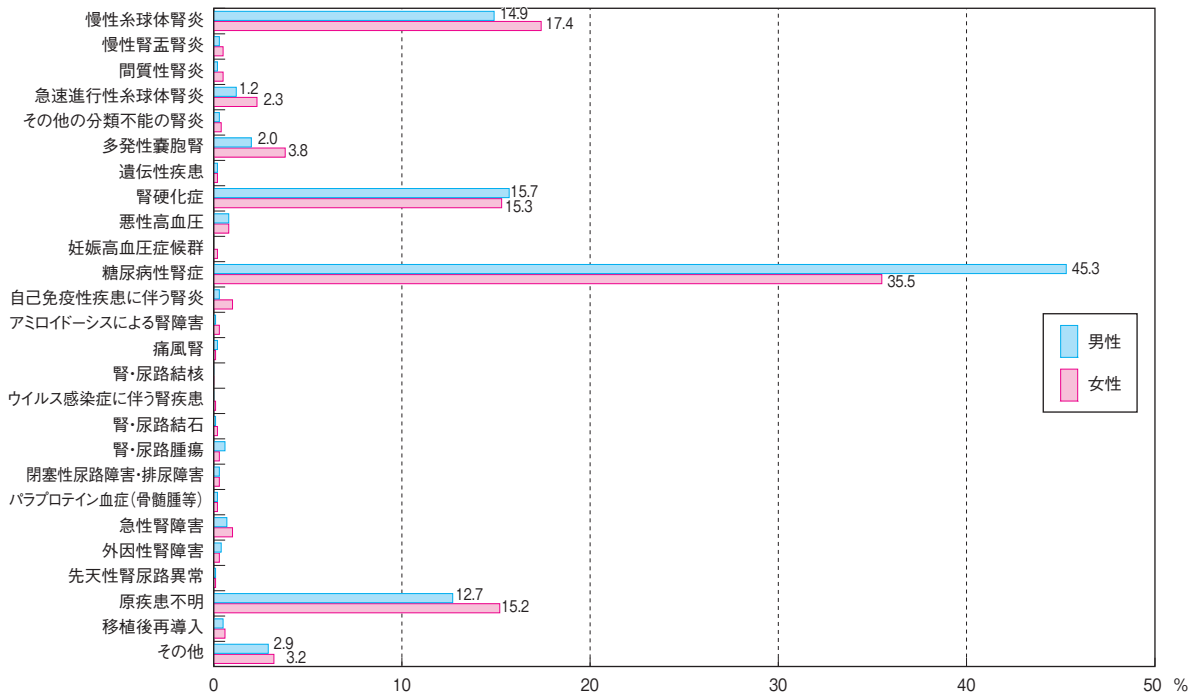


図 15 導入患者 原疾患と性別, 2018

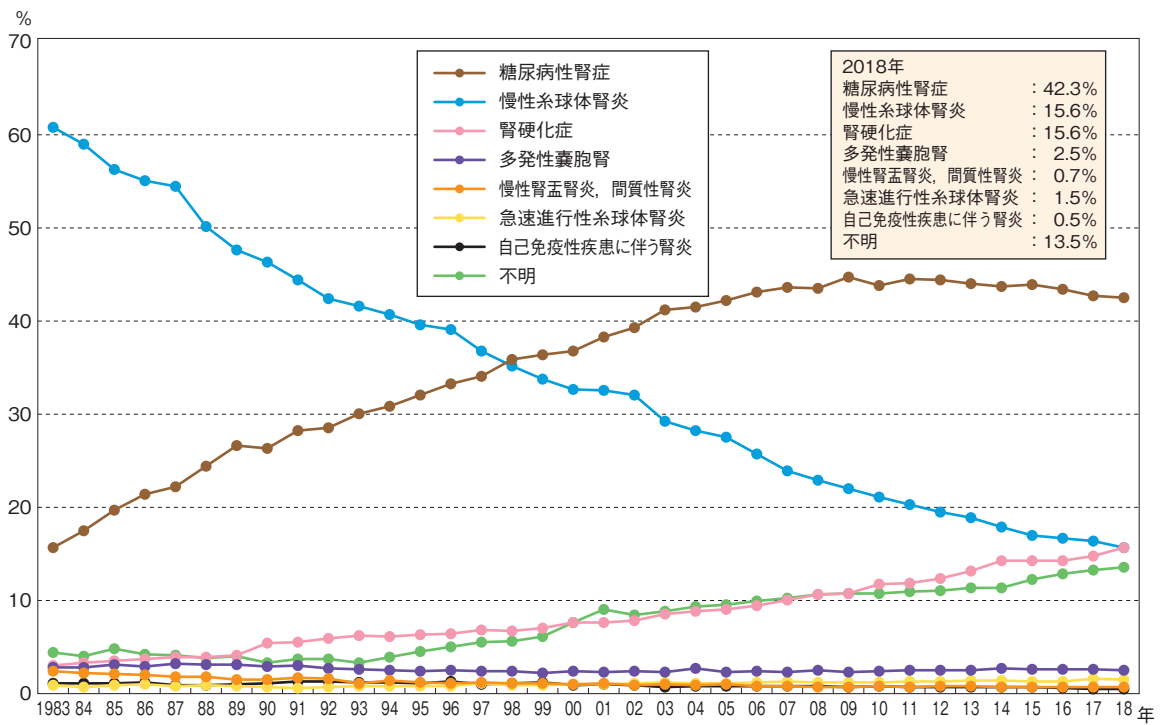


図 16 導入患者 原疾患割合の推移, 1983-2018

2018年導入患者の原疾患で最も多いのは糖尿病性腎症で42.3%、次いで慢性糸球体腎炎の15.6%、腎硬化症の15.6%であり、原疾患不明は13.5%であった（図15、補足表15）。

導入患者の原疾患は、1998年に慢性糸球体腎炎に代わって、糖尿病性腎症が原疾患の第1位になって以来、一貫して増加していたが、近年はほぼ横ばいで推移している。慢性糸球体腎炎の割合は直線的に低下している。一方、腎硬化症および原疾患不明の割合は年々上昇している（図16、補足表16）。

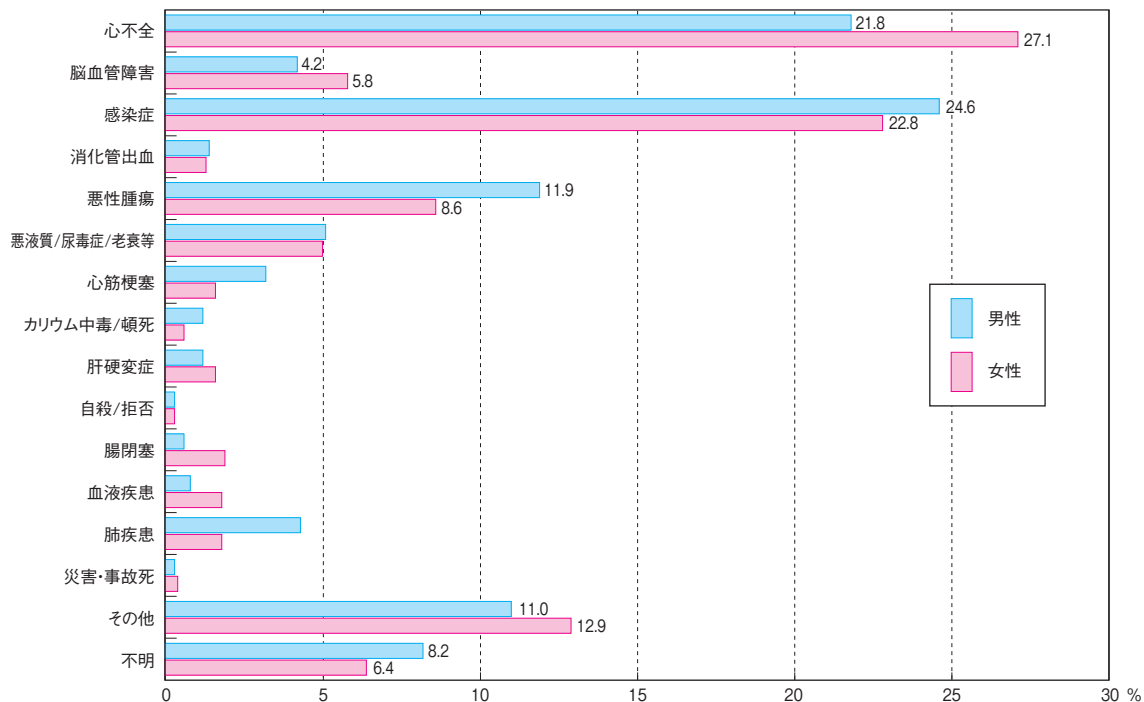


図 17 導入患者 死亡原因と性別, 2018

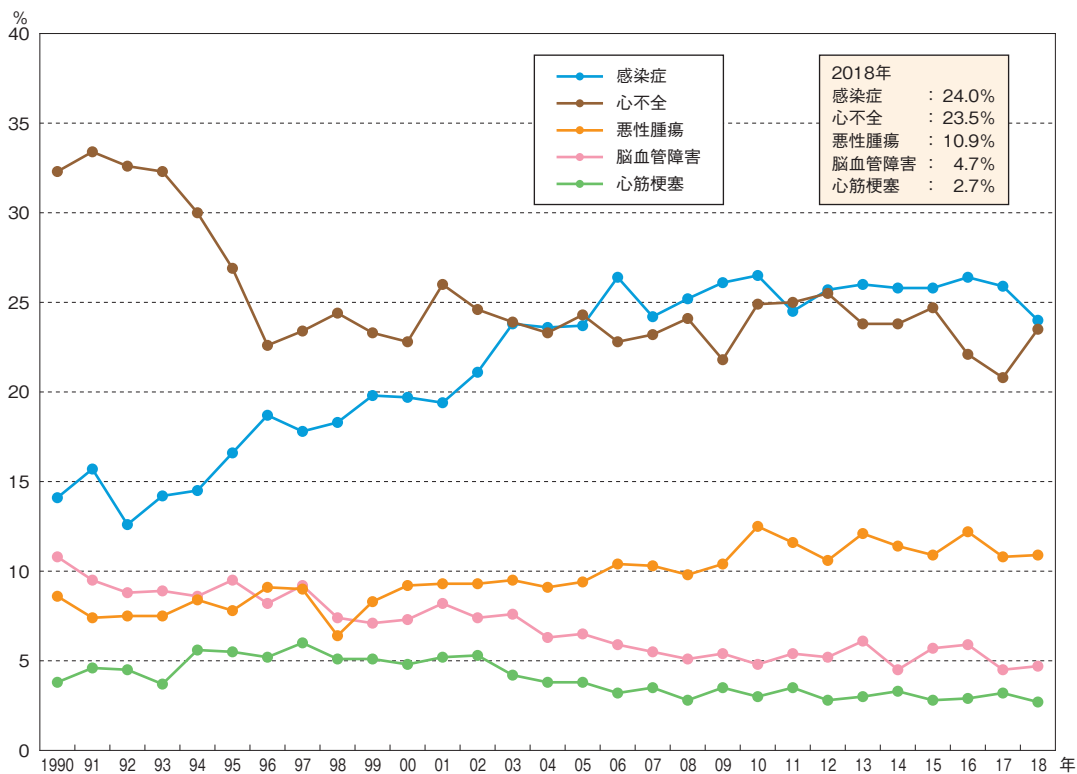


図 18 導入患者 死亡原因割合の推移, 1990-2018

## 2. 死亡原因

2018年導入患者の導入年内の死亡原因は、全体では感染症が24.0%と最も多く、次いで心不全が23.5%、悪性腫瘍が10.9%、悪液質/尿毒症/老衰等が5.1%、脳血管障害が4.7%、肺疾患が3.5%、心筋梗塞が2.7%であった。心血管死の合計は30.9%であった（図17、補足表17）。透析導入年内の死亡原因の推移をみると、1990年代は心不全が最も多かったが、感染症が徐々に増加し、2006年頃から感染症が心不全を上回り、最も多い死因となった。悪性腫瘍による死亡の割合も増加傾向であり、2006年以降10%を超えている。脳血管障害による死亡は、徐々に減少傾向を示している（図18、補足表18）。